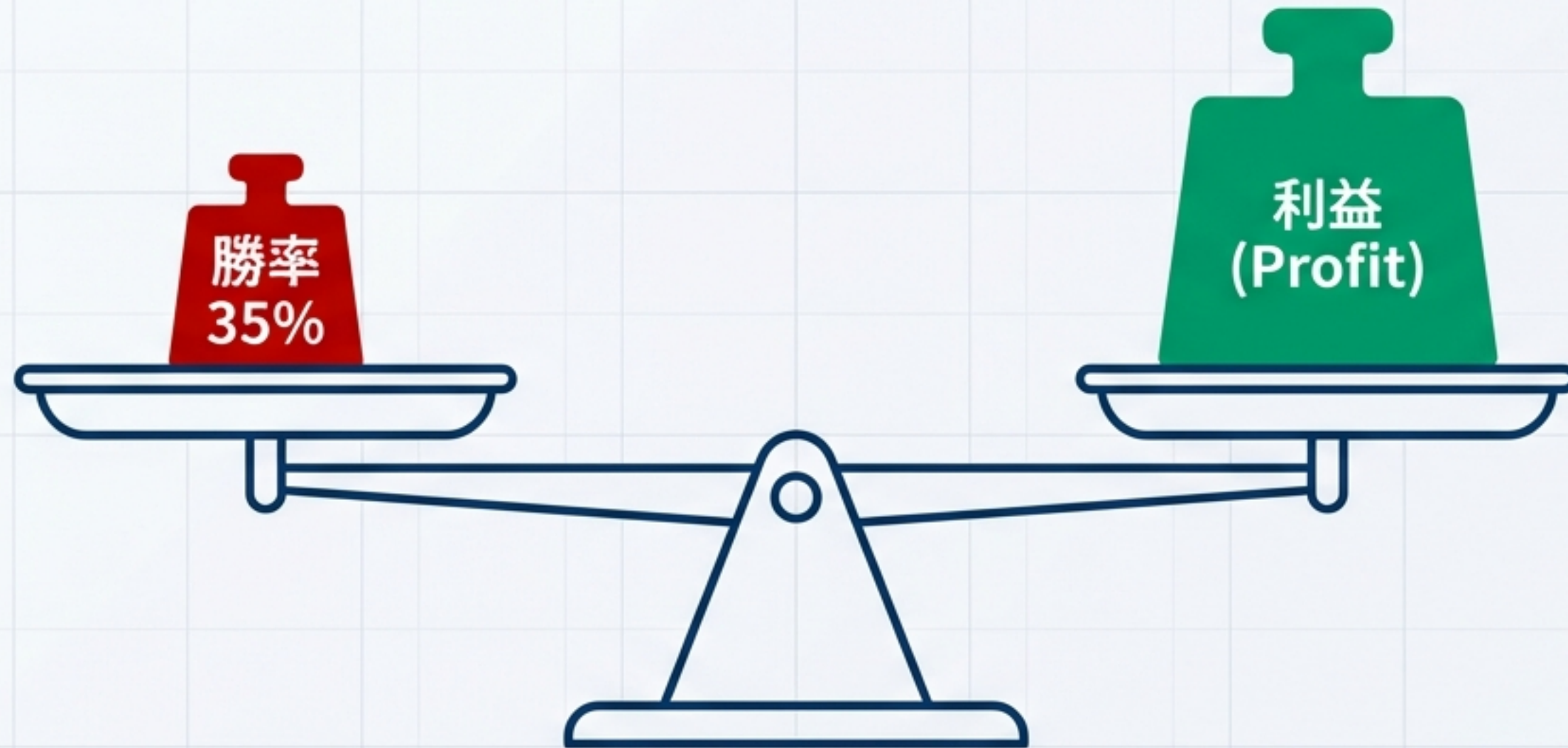
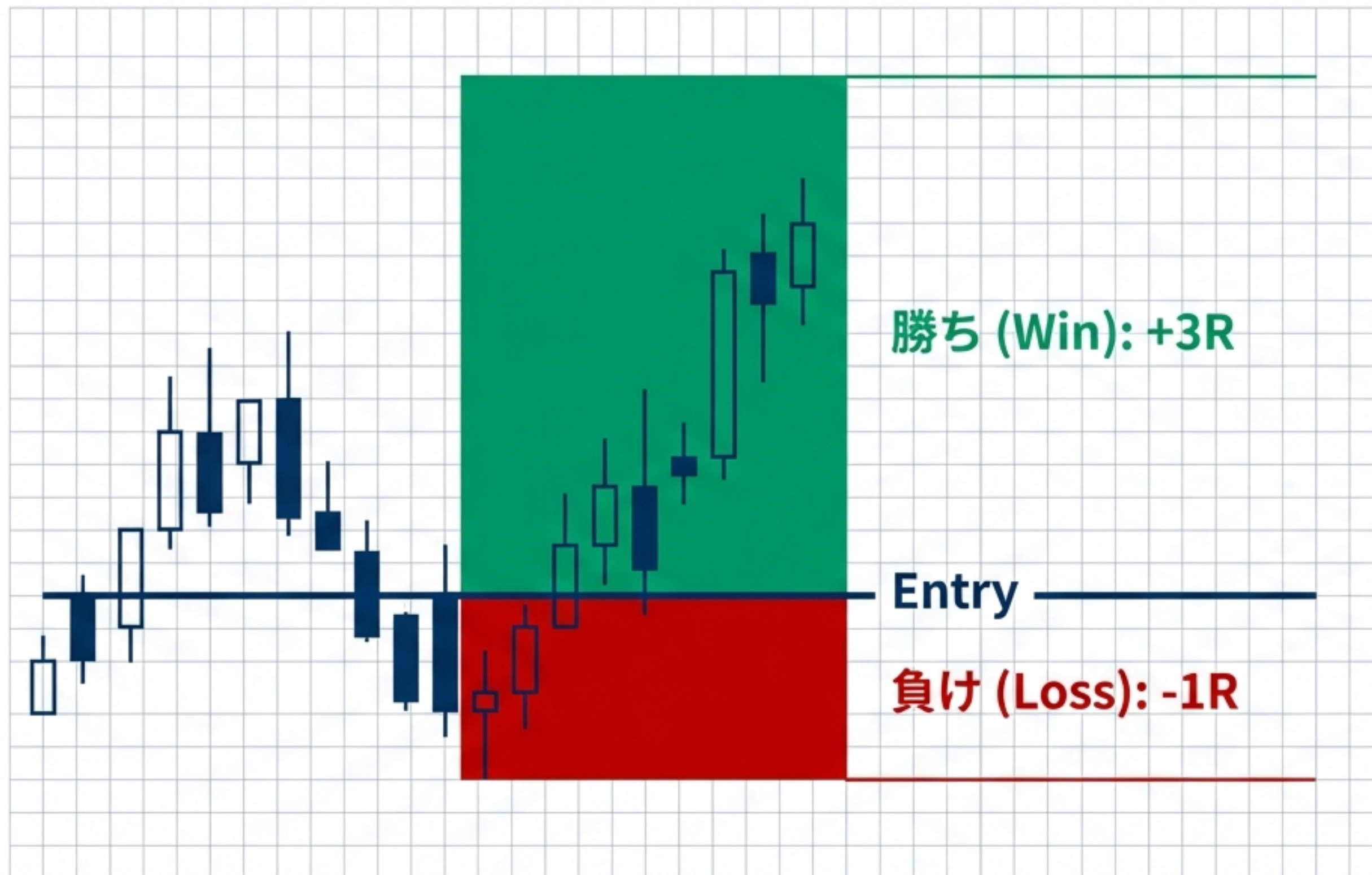


勝率35%で勝つための数学

リスクリワード1:3戦略と確率論の正体



そもそも「リスクリワード1:3」とは？



ただ「1:3を狙え」という精神論ではありません。

これは「負けを1」に固定し、「勝ちを3」に伸ばす確率論的な構造設計です。

衝撃の事実：勝率25%でトントンになる

$$E = p \times 3R - (1 - p) \times 1R$$

$$3p - (1 - p) \geq 0$$

$$4p \geq 1$$

$$p \geq 0.25$$

理論上、4回に1回勝てば資金は減らない。

「勝率50%以上が必要」という呪縛から解放されましょう。

現実的な目標は「勝率35%」

文脈 (Context):

- 25%は理論上の損益分岐点です。
- 実際にはスプレッドやスリッページ（誤差）があるため、30%～35%を目指します。

計算式 (The Calculation):

$$0.35 \times 3 - 0.65 \times 1 = +0.4R$$

~~誤解 (Myth): 勝率50%が必要~~

真実 (Truth): 35%あれば十分利益が出る

10回トレード・シミュレーション

資金1万通貨 / 10 Trades / Win Rate 35%

負け (Losses)

6.5回 × -10,000 JPY

-65,000 JPY

勝ち (Wins)

3.5回 × +30,000 JPY

+105,000 JPY

合計利益 (Total Profit): +40,000 JPY

負け越しているのに、利益は残る。これが確率論の事実です。

勝率が「43%」に上がるとどうなるか？



$$0.43 \times 3 - 0.57 \times 1 = +0.72R$$

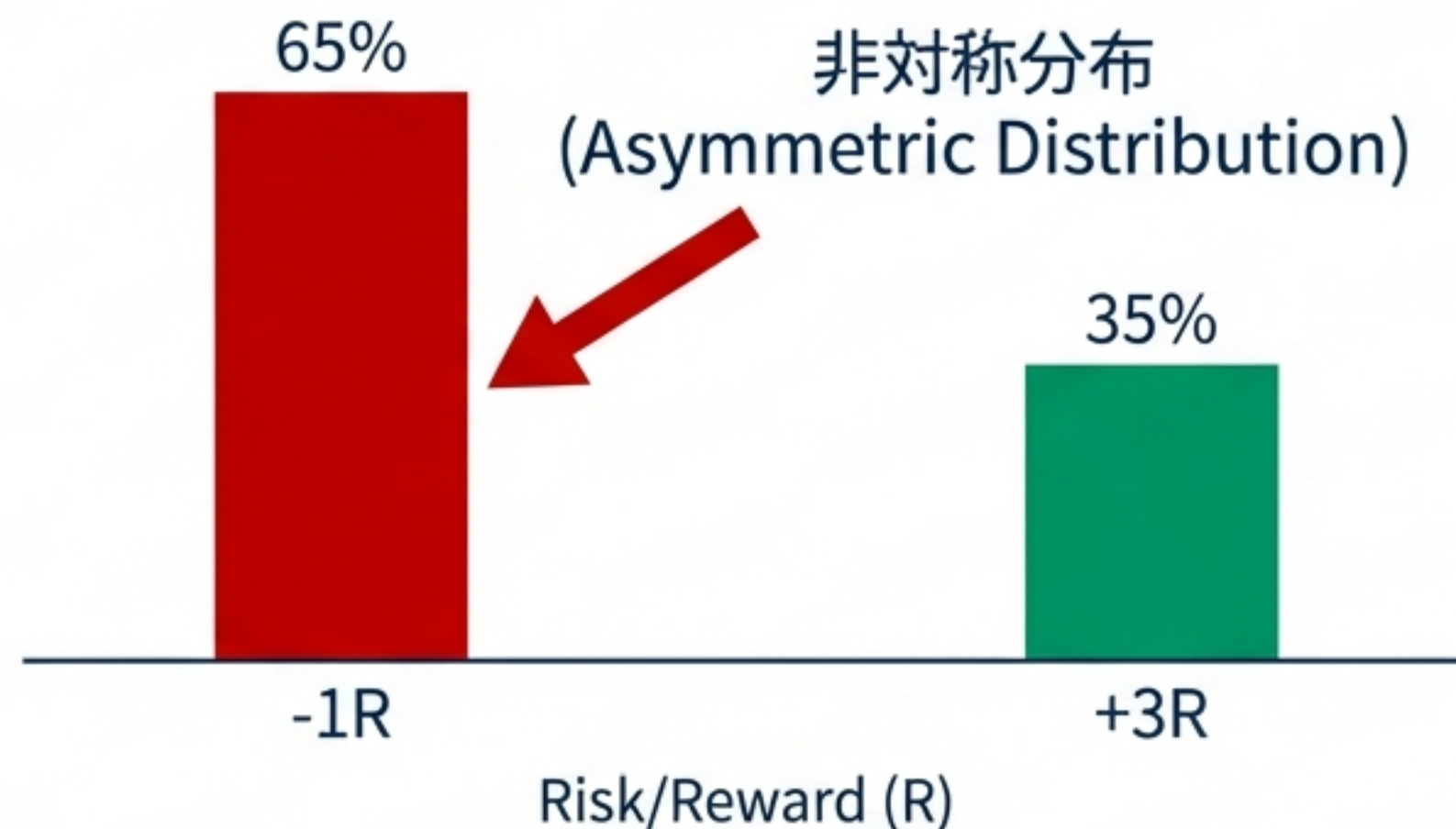
勝率がわずかに上がるだけで、利益は劇的に増えます。
これが1:3戦略の威力です。

「分布の歪み」こそが優位性の源泉

1:1 Strategy (Symmetrical)



1:3 Strategy (Asymmetrical)



回数では負けるが、金額で勝つ。

実現リスクリワードを右に歪ませることで、期待値をプラスに固定します。



初心者が陥る「高勝率の罠」

勝率70%を目指すと…

- 🧠 • 恐怖で利確を早める (+0.5Rで決済)
- 👉 • 損切りをためらう



Win 70% / RR 0.5:1 → Negative Expectancy
(マイナス期待値)

「損小利大」を知っていても、行動できていない人が多い。
分布が対称に近づき、優位性が消滅します。

1:3は「どこでも」狙えるわけではない



No 1:3. Aim for 1:1.



1:3 Target.

必須条件

1. 上位足トレンド一致
2. ボラティリティ拡大局面
3. 拡張波が発生しやすい場所

値幅が出る「理由」がある場所でのみ、この数学は機能します。

「押し目・戻り目」こそが1:3の現場



マルチタイムフレームでのセットアップ

Daily (日足): 上昇トレンド



4H (4時間足): 押し目形成



1H (1時間足): 反転サイン

避けるべき局面 (Avoid)

- ボラティリティが低い時間帯 (e.g. Tokyo Lunch)
- レンジの中央

メンタルの壁：「怖い」場所こそがチャンス



押し目買いは「落ちてくるナイフ」に見えるため、恐怖を感じます。

大衆が怖がっている時こそ、リスクリワードが最も良い局面です。

トレンドの初動を掴むには、この恐怖を受け入れる必要があります。

5連敗は「確率の範囲内」

勝率35%なら、10回中6～7回は負けます。
5連敗は普通に起こります。



プロ野球の3割打者
(Pro Baseball .300 Hitter)

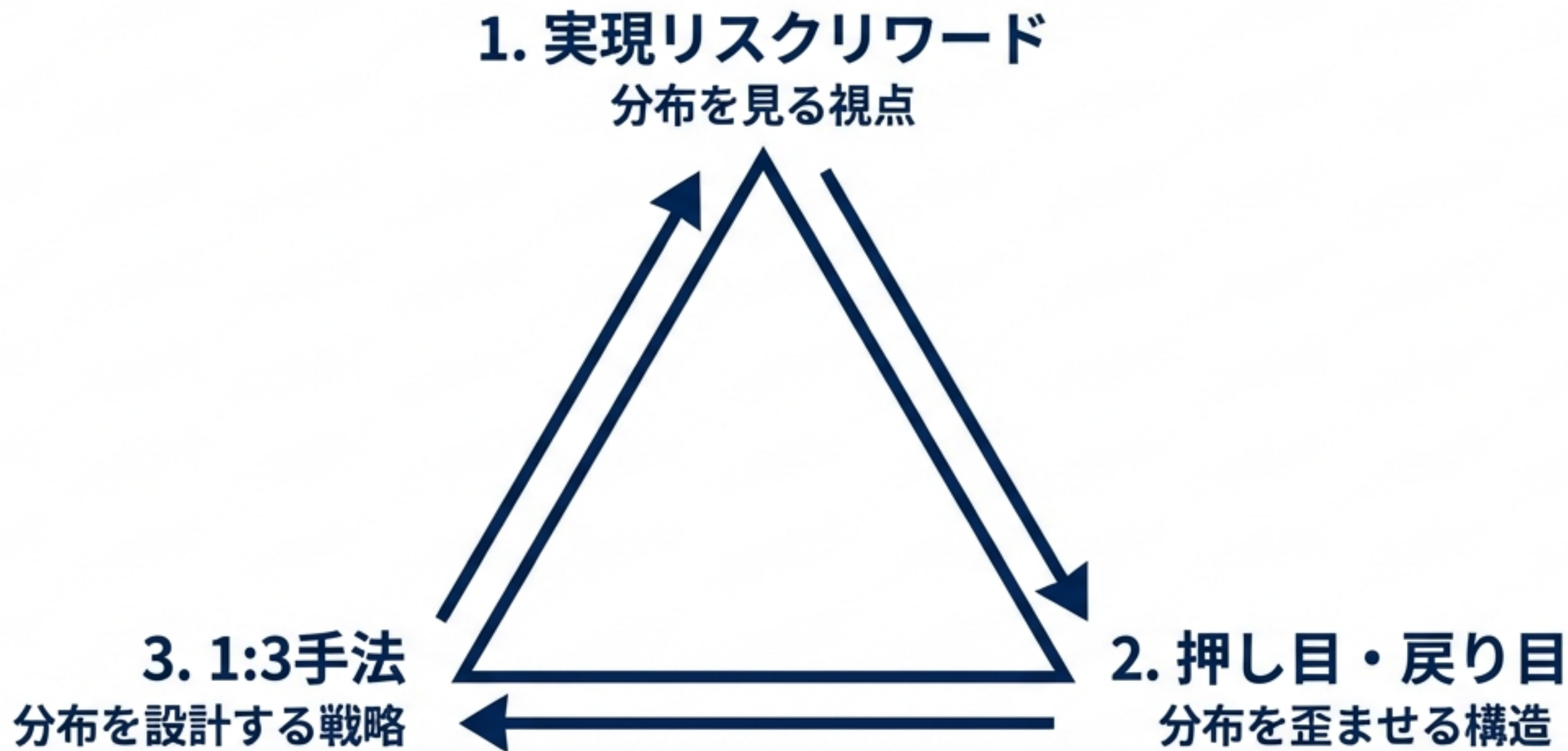
10回中7回は凡退しても
「一流」です。

Mindset Shift

✗ 「この手法はダメだ」

✓ 「ただの確率の偏り。次勝てば+2Rに戻る」

3つの思想は1本でつながっている



確率論とは、勝率を上げる理論ではなく、
「分布をどう設計するか」の理論です。

焦らず、分布を積み上げよう

- ✓ 勝率は35%あれば十分
- ✓ リスクを1に固定し、リワードを3に伸ばす
- ✓ トレンドと押し目の構造を利用する

連敗は確率のノイズです。長期的な「分布の歪み」を信じて、淡々とトレードを続けましょう。